

## 山形県内公立中学校における

### ホームページ開設状況と生徒の活動について†

# Research on the Establishment of a Homepage and a Student's Activity in Junior High School of the Yamagata Prefecture.

河合 康則\* 佐藤 浩士\*\*

\*Yasunori KAWAI \*\*Hiroshi SATOHO

山形県内公立中学校のホームページの開設状況、並びに授業・特別活動・部活動といった生徒の活動の掲載状況、ホームページの更新状況等について調査した。その結果、125校中、77校の開設を確認できた。また、生徒の活動を77校中、58校が掲載しており、それらの特徴とホームページの更新状況・未開設理由等について明らかにし、中学校ホームページの開設と生徒の活動の掲載のあり方を考える上での基礎資料を得ることができた。

キーワード： 山形県内公立中学校、ホームページ、開設状況、情報教育、生徒の活動

## 1. はじめに

「ICT化」<sup>1)</sup>や「開かれた学校」への要求を背景に、ホームページを開設している学校は、もはや珍しい存在ではなくなっている。しかし、山形県内公立中学校において、様々なコンテンツがある中で、学校の中心的な存在である生徒が行った活動が、どのように掲載されているのか調査し、整理した研究は見当たらない。

一方、生徒の活動をホームページに掲載する利点として以下の点があげられ、生徒の活動のホームページへの掲載は、教育上有意義であると考えられる。

○生徒にとって、ホームページに掲載されることが1つの目標になり、学校での活動に取り組む意欲の増進につながる。

○中学校に入学する予定の児童にとって、どのよ

うな学校生活であるのか知ってから入学できる。

○自校と他校の教員や生徒相互にとって、比較や参考のための情報交換や共有になる。

そこで本研究では、ホームページ開設状況や実態、それらの特徴や更新状況・未開設理由等について明らかにし、中学校ホームページの開設内容や、生徒の活動の掲載のあり方を考える上での基礎資料を得ることを目的として調査を行った。

## 2. 調査方法

### 2.1. ホームページ検索調査

山形県内の公立中学校125校を対象に、山形県教育センターの山形県内中学校リンク一覧<sup>2)</sup>

(<http://www.yamagata-c.ed.jp/link/gakkoulink/tyulink.htm>)とGoogle検索を用いて、山形県内公立中学校のホームページの有無を調査した。

### 2.2. ホームページアクセス調査

ホームページ検索の結果明らかとなった、山形県内におけるホームページ開設校77校を対象にホームページ掲載内容を、実際にホームページにアクセスし、主な掲載内容と生徒の活動、更新状況について調査した。なお、生徒の活動は授業・特別活動・

---

(年月日受理)

\*山形大学地域教育文化学部

\*\*山形大学地域教育文化学部卒業

†日本産業技術教育学会第27回東北支部大会(2009,弘前)にて発表

部活動を対象に分類・整理した<sup>3)</sup>。

### 2.3. 電話による聞き取り調査

山形県内の公立中学校 125 校を対象に、「ホームページの開設状況」について、電話対応マニュアルを作成して電話による聞き取り調査を実施した。なお、回答は校務分掌で情報を担当されている先生や、ホームページ管理担当の先生にお願いした<sup>4)</sup>。また、検索調査結果の未開設 48 校には、「ホームページを開設していない理由」と「今後のホームページの開設予定」を調査した。

なお、2.1～2.3 項のすべての調査は、平成 20 年 11 月 26 日～平成 20 年 12 月 22 日の期間に実施した。したがって、以下に示す調査結果は、すべて平成 20 年 12 月現在のものである。

## 3. 調査結果及び考察

### 3.1. ホームページ検索調査の結果

図 1 に示すように、山形県内公立中学校のホームページ開設状況についてみると、ホームページを開設している中学校は 77 校約 62%確認できた。ホームページを開設していない中学校は 48 校約 38%であった。

図 2 に示すように、地区別にみると、村山、最上、

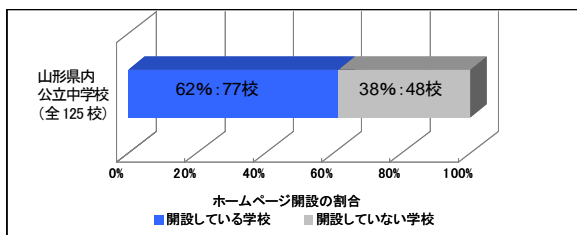


図1 山形県内公立中学校のホームページ開設状況

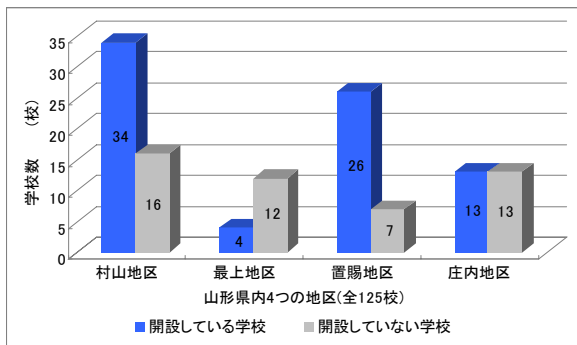


図2 地区別にみた山形県内公立中学校のホームページ開設状況

置賜、庄内の各地区の中で、「最上地区」は他の地区と比較して、ホームページを開設している学校の割合が低かった。

また、図 3 に示すように、学校規模別にみると、大規模校は、他の規模の学校と比較して、ホームページを開設している割合が高かった。

最上地区は学校数が 16 校と少なく、その中で小規模校が 13 校と、小規模校の割合が高いことがホームページ開設校の割合が低い理由と考えられた。

### 3.2. ホームページアクセス調査の結果

図 4 に示すように、主な掲載内容についてみると、「学校概要 (沿革や学校経営, 校歌, 校章, 校内案内等主に学校を紹介する掲載)」「教育目標 (学校の教育目標)」「行事予定 (週別, 月別, 年度別の学校

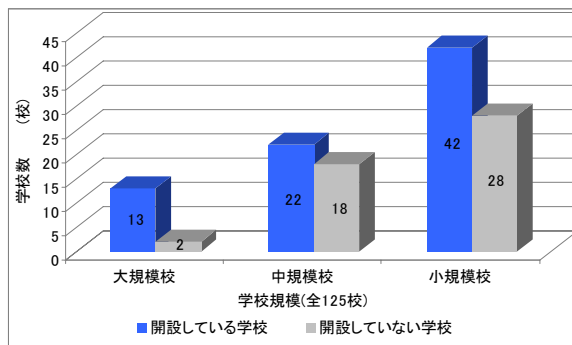


図3 学校規模別にみた山形県内公立中学校のホームページ開設状況  
(大規模校:18 学級以上, 中規模校:11～17 学級, 小規模校:10 学級以下)

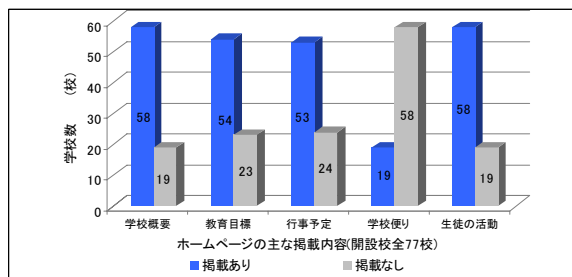


図4 ホームページ開設校における主な掲載内容

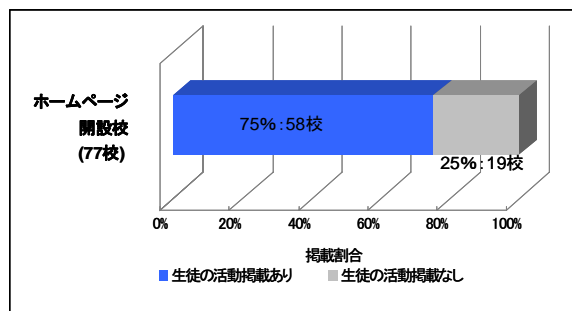


図5 ホームページ開設校における生徒の活動の掲載状況

の活動予定の掲載)」「生徒の活動(授業, 特別活動, 部活動等の生徒を中心とした掲載)」は, それぞれ同程度の約70%の学校で掲載されていた。「学校便り(pdfファイル等で定期的に掲載されている学校通信)」は, 配信している学校が比較的少なかった。配信している学校は, 山形市や鶴岡市に多く, 配信に市町村ごとの偏りがみられた。

図5に示すように, ホームページ開設校における生徒の活動の掲載状況についてみると, ホームページに生徒の活動を掲載している中学校は, 全開設77校中, 58校確認できた。約75%の学校は生徒の活動を掲載していた。生徒の活動を掲載していない中学校は19校であった。

図6に生徒の活動の主な掲載内容の割合を示した。生徒の活動掲載校58校中, 掲載の最も多いのが特別活動(50校約86%), 次に部活動(44校約76%), 授業(18校約31%)の順であった。

図7に示すように, 生徒の活動の掲載状況を地区別にみると, 「置賜地区」の掲載の割合は比較的少なかった。「置賜地区」の学校では, 生徒の活動を掲載せず, 学校の基本情報を中心に掲載する傾向がみられた。また, 大規模・中規模・小規模の学校規模別に生徒の活動の掲載状況を見ると, 学校規模に関わらずそれぞれにおいて, 約3対1の割合で生徒の活動を掲載している学校が, 掲載していない学校を上回っていた。

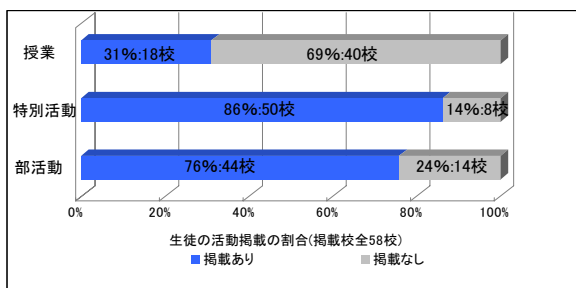


図6 生徒の活動の主な掲載内容の割合

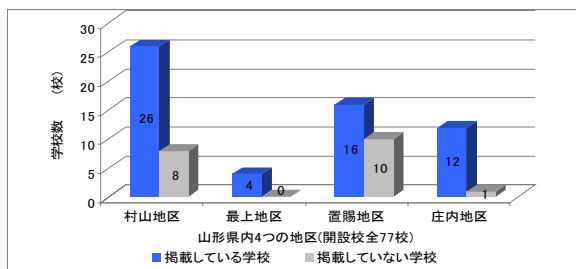


図7 地区別にみたホームページ開設校における生徒の活動の掲載状況

一方, 図8に示すように, ホームページの更新状況についてみると, 更新している中学校は, 全開設77校中, 43校確認できた。更新している学校は約56%に留まり, 約44%の34校は更新が滞っていることがわかった。なお, 「更新」とは, 平成20年4月1日~平成20年12月8日までの間に, ホームページ上に情報のアップロードがあった場合に更新ありとみなした。

さらに, 図9に示すように, ホームページの更新期間についてみると, 最も多くの学校が行っている更新の周期は「不定期」(13校約30%)であり, 次いで「1ヶ月に1回程度」(12校約28%)であることがわかった。そして, 「ほぼ毎日」更新を行っている学校は4校に留まり, 更新が滞ってしまう学校もある中で, 更新を頻繁に繰り返していき続けるのは難しい状況であるということがわかった。

図10に示すように, ホームページを更新していない学校34校中19校の学校が, 「平成18年度まで」と「平成19年度まで」の2年間で更新が滞っていることがわかった。

図11に示すように, 更新状況を地区別にみると, 「置賜地区」のみが, ホームページを更新している学校より, 更新していない学校の割合が高いということがわかった。これは前述したように, 置賜地区の学校が, 基本情報を中心に掲載していることと関係していると思われる。

図12に示すように, 更新状況を学校規模別にみると, 大規模・中規模・小規模校となるにつれて, ホームページの更新が滞ってしまう傾向にあり, 「小規模校」に至っては, ホームページを更新している学校よりも, ホームページの更新が滞ってしまった学校の方が多いという結果になった。

以上のように, ホームページの開設において, ホームページを更新し続ける難しさが見て取れた。

表1 タイプ別にみた山形県内公立中学校の生徒の活動に関するホームページの掲載状況

	ホームページ更新有り	ホームページ更新無し
生徒の活動掲載有り	a校 (37校)	b校 (21校)
生徒の活動掲載無し	c校 (5校)	d校 (14校)

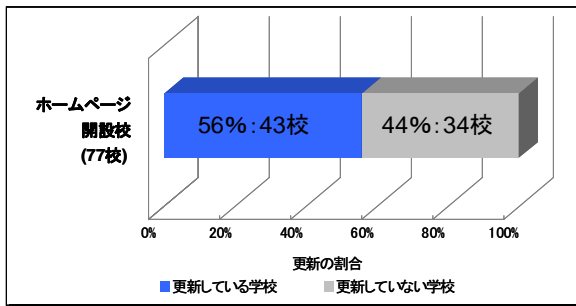


図8 ホームページ開設校のホームページ更新状況

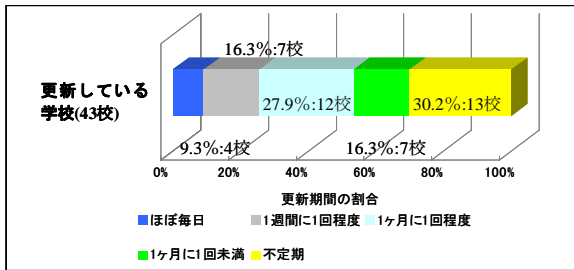


図9 ホームページ開設校におけるホームページの更新期間

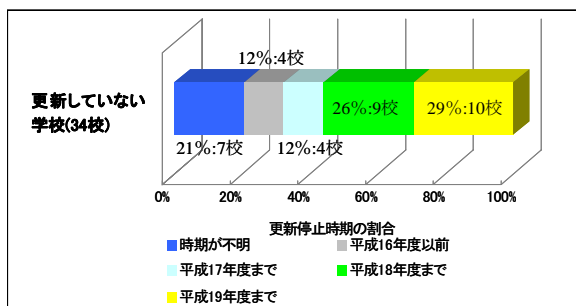


図10 ホームページ開設校におけるホームページの更新停止時期

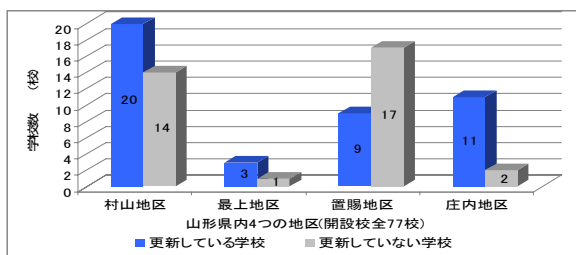


図11 地区別にみたホームページ開設校におけるホームページの更新状況

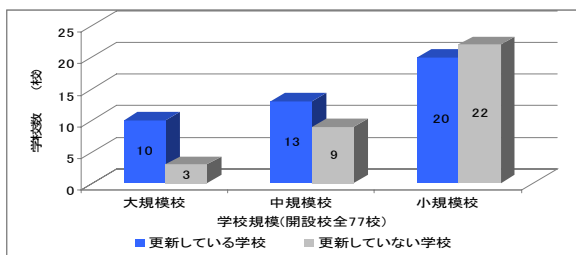


図12 学校規模別にみたホームページ開設校におけるホームページの更新状況

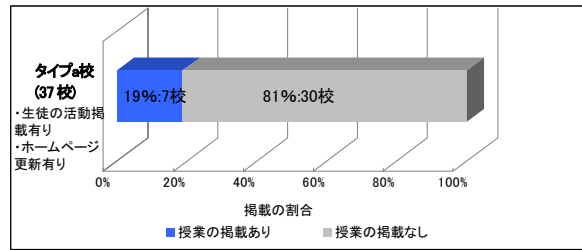


図13-(a) タイプa校の生徒の活動(授業)の掲載状況

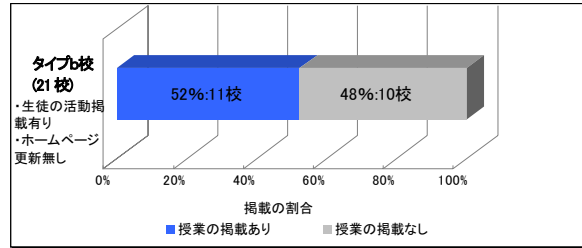


図13-(b) タイプb校の生徒の活動(授業)の掲載状況

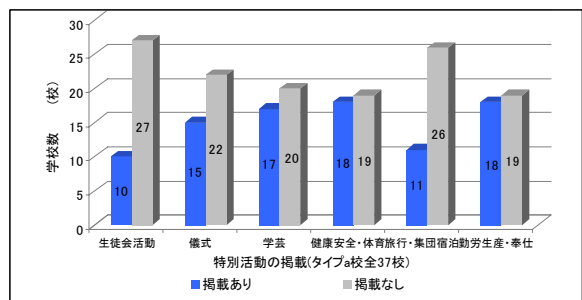


図14 タイプa校の生徒の活動(特別活動)の主な掲載内容

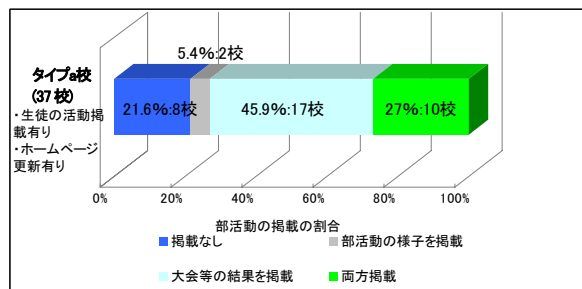


図15-(a) タイプa校の生徒の活動(部活動)の主な掲載内容

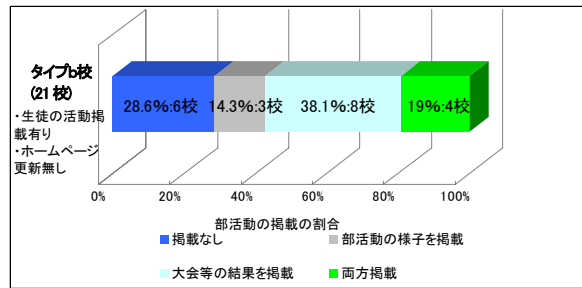


図15-(b) タイプb校の生徒の活動(部活動)の主な掲載内容

表1に示すように、生徒の活動の掲載とホームページの更新状況との組み合わせをタイプ別に分けてみた。その特徴は以下の通りである。なお、タイプ別に分類した理由は、生徒の活動は常に新しい情報として更新発信する必要があるため、タイプ別に分けてみることによって、掲載の有無と更新の難易との関係や原因を読み取れないかと考えたからである。

図13に示すように、生徒の活動(授業)の掲載は、a校よりb校、すなわちホームページの更新がなされていない学校に多く掲載されていた。また、校内授業研を掲載するケースが多かった。授業に関する生徒の活動と、ホームページの更新との関係や原因は推察できなかった。

図14に示すように、最も多かった生徒の活動(特別活動)の掲載は、a校は文化祭や合唱コンクールなどの「学芸的行事」、運動会などの「健康安全・体育的行事」、「勤労生産・奉仕的行事」が多かった。すなわち、行事を中心に掲載・更新をしているため、ホームページの継続的な更新はなされているが、不定期に更新せざるを得ない状況が考えられた。なお、際立った特徴がみられなかったためb校のグラフは省略したが、比較してみると、ホームページを更新しているa校の特別活動に関する生徒の活動の掲載は、特別活動のすべての内容の掲載においてb校より学校数は多く、積極的に更新と発信をしているように思われた。

図15に示すように、生徒の活動(部活動)の掲載は、部活動の様子のみ掲載より、大会等の結果を中心に掲載している学校が多かった。さらに、部活動の掲載は、小規模校が多かった。部活動に関する生徒の活動と、ホームページの更新との関係や原因は推察できなかった。

表2に示すように、生徒の活動以外の掲載(c・d

表2 タイプc・d校にみるホームページの生徒の活動以外の主な掲載内容

タイプ別中学校	主な掲載内容
c校 (5校) ・生徒の活動 掲載無し ・ホームページ 更新有り	◆年間行事計画:年間の行事がわかる表 ◆月別予定表:年間行事計画の月別版
d校 (14校) ・生徒の活動 掲載無し ・ホームページ 更新無し	◆基本情報: 住所、電話番号、FAX番号、E-mailアドレス ◆学校の教育目標 ◆学校の沿革

校19校)は、年間行事計画や月別予定表など、最小限の情報の更新や、住所などの基本情報や沿革など、更新を必要としない情報を掲載している学校がほとんどであった。

### 3.3. 電話による聞き取り調査の結果

表3にホームページ未開設の理由を示した。ホームページ未開設校48校中、有効回答数は44校であった。上の表は本研究の結果、下の表は同じ方法で8年前の研究結果<sup>5)</sup>である。

8年前は「インターネットに接続されたばかり」、「インターネットに接続されていない」、「パソコンが揃ったばかり」などの環境面に関して未整備という回答が全体の半数以上を占めていた。

それに対して、今回の調査における「ホームページ未開設の理由」(回答44校)は、「人手不足」、「管理・運営・更新が困難」、「時間的余裕がない」といった回答が全体の約60%を占めていた。

その他に、今後の明確な開設予定がある学校は、44校中4校だけあった。

生徒の活動を掲載する際の注意点については、表4に示すように、有効回答数は、生徒の活動を掲載

表3 ホームページ未開設の理由

◆今回の未開設の理由 回答44校(未開設校48校中)		
ホームページ未開設の理由	件数(件)	割合(%)
人手不足	16	24.2%
管理・運営・更新が困難	15	22.7%
時間的余裕がない	9	13.6%
生徒の個人情報保護の観点から	6	9.1%
ホームページの開設のメリットがない	4	6.1%

◆8年前の未開設の理由 回答91校(未開設校91校中)		
ホームページ未開設の理由	件数(件)	割合(%)
インターネットに接続されたばかり	16	14.3%
これからやりたい(準備段階)	15	13.4%
インターネットに接続されていない	15	13.4%
時間的余裕がない	14	12.5%
パソコンが揃ったばかり	11	9.8%

注)多い順に上位5件まで

表4 生徒の活動を掲載する際の注意点

回答43校(掲載校58校中)		
注意すること	件数(件)	割合(%)
個人が特定できないようにする	20	46.5%
保護者の承諾を得る	9	20.9%
地方公共団体のルール	3	7.0%
一般的なルール	1	2.3%
不明	10	23.3%
計	43	100.0%

している学校 58 校中 43 校（複数回答）であった。

「生徒の活動を掲載する際に注意すること」で最も多かったのは、「個人が特定できないようにすること」が 20 件。次に「保護者の承諾を得る」が 9 件であった。また、「不明」と回答した学校も 10 件あったが、その学校はすべてタイプ b 校であり、ホームページを管理していた職員が異動してしまったためわからないという回答が多く、ホームページがそのままになっている学校もあった。

その他に、「ホームページを見て欲しい対象」（回答 43 校、複数回答）の主なものは、「保護者」が 19 件、「地域の方」が 9 件と多かった。

「生徒の活動を掲載していない理由」（回答 14 校）の主なものは、「市町村（地方公共団体）の意向」と回答した学校が 4 校、「時間的余裕がない」が 3 校、「必要性がない」が 2 校であった。

タイプ c・d 校に、「今後の生徒の活動の掲載予定」（回答 14 校）を聞いたところ、「あり」と回答した学校がわずか 1 校であり、「なし」が 7 校、「未定」が 5 校であった。学校の統廃合により閉鎖するという回答が 1 校であった。

#### 4. まとめ

山形県内公立中学校のホームページの開設状況、並びに授業・特別活動・部活動といった生徒の活動の掲載状況、ホームページの更新状況等について、「ホームページ検索調査」「ホームページアクセス調査」「電話による聞き取り調査」を行ったところ、125 校中、77 校のホームページ開設を確認できた。さらに、生徒の活動を 77 校中、58 校が掲載しており、それらの特徴とホームページの更新状況・未開設理由等について明らかにすることができた。また、現在の山形県内公立中学校のホームページの開設や生徒の活動の掲載状況は、それらを必要であると考えられる学校と、不必要であると考えられる学校があり、その決定は、学校の環境や状況が影響していると考えられた。しかし、今回の調査で明らかにしたこれらの実態の背景までは調査が及ばなかったため、今後の課題として残した。

以上のように、中学校ホームページの開設や生徒

の活動の掲載のあり方を考える上での基礎資料を得ることができた。

#### 5. 謝辞

本研究を進めるに際し、調査の回答にご協力下さいました山形県下の各学校の情報担当の諸先生及び技術科担当の諸先生、校長先生方に厚く謝意を表します。

#### 6. 参考文献

- 1) 山形県教育センター:ICT の効果的活用, 学び続ける教師, pp.41-43,(1999)
- 2) 山形県教育センター: 山形県内中学校リンク一覧, <http://www.yamagata-c.ed.jp/link/gakkoulink/tyulink.htm>
- 3) 文部省:中学校学習指導要領(平成 10 年 12 月) 解説―特別活動編一, pp.55-75,(1999)
- 4) 山形教育用品株式会社:山形県教育関係者名簿, pp.1-254, (2009)
- 5) 竹口伸輔, 河合康則: 中学校におけるホームページ開設と運用規約に関する調査研究, 山形大学教育実践研究, vol.11 号, pp.83-89(2002)